

JANNET研究会
第二回CBID検討会

日本から世界へ

～日本の地域実践例を

CBRマトリックスで読み解く～

尻無浜博幸（松本大学）

CBRの前提

1. 開発途上国における障害者支援の方法として提唱
→ その後、先進国においても有効な方法と認識
2. 「地域資源を用いて、地域レベルで行うリハビリテーション活動で、障害者とその家族を含む、地域全体が参加して行われる方法である」定義。
(1978年 WHO) : **施設収容型からの脱却**
3. 「CBRは、障害者自身やその家族、その地域社会の中の既存の資源に入り込み、利用し、その上に構築されたアプローチ」定義。 (1981年のWHOリハビリテーション専門家会議) : **アウトリーチ型との違い**
4. 「CBRは、地域開発におけるすべての障害者のリハビリテーション、機会均等、及び社会への統合のための1つの戦略である。CBRは障害者自身、その家族、地域の人々、の力を結集し、適切な保健・医療、教育、職業、社会福祉サービスが提供されることによって実施されるものである」定義。
(1994年 WHO/ILO/UNESCO CBRに関する「共通指針」)
5. 4ベースに「障害とリハビリテーションの概念」, 「障害者の権利の強調」
「貧困削減」, 「コミュニティによる受け入れ」, 「障害者団体の役割」が加わった。特に障害者の権利と貧困削減のための行動に重点。
(2004年) : **目的の明確化**

CBRがもつ方向性

1. CBR はよりコミュニティモデルであり、インクルーシブな開発モデルである。
2. 個人、その人だけではなくて、その人とその家族とコミュニティ全体を見ている。
3. CBR が成功するためには、生存するためには、コミュニティの参加が必要である。
4. CBR は、ボトム・アップのアプローチである。
5. CBR は、当事者とその家族と組織とコミュニティが努力を一緒にすることによって実施される。
6. CBRは、社会生活モデルである。（医学モデルからの脱皮）

日本の地域福祉の流れ

1. 「福祉施設収容型」 → 「在宅（訪問・通所・短期入所）型」

→ 「コミュニティケア型」

：「施設完結」から「地域循環」（地域基盤強化）へ

「現行の仕組みでは対応しきれていない多様な生活課題に対応するため、地域福祉をこれからの福祉施策に位置付けることが必要」

（これからの地域福祉のあり方に関する研究会報告書/2008年3月/厚労省）

2. 福祉計画の一本化

・ 高齢者対象：ゴールドプラン→新ゴールドプラン→新ゴールドプラン2 1

・ 障がい者対象：障害者プラン→新障害者プラン

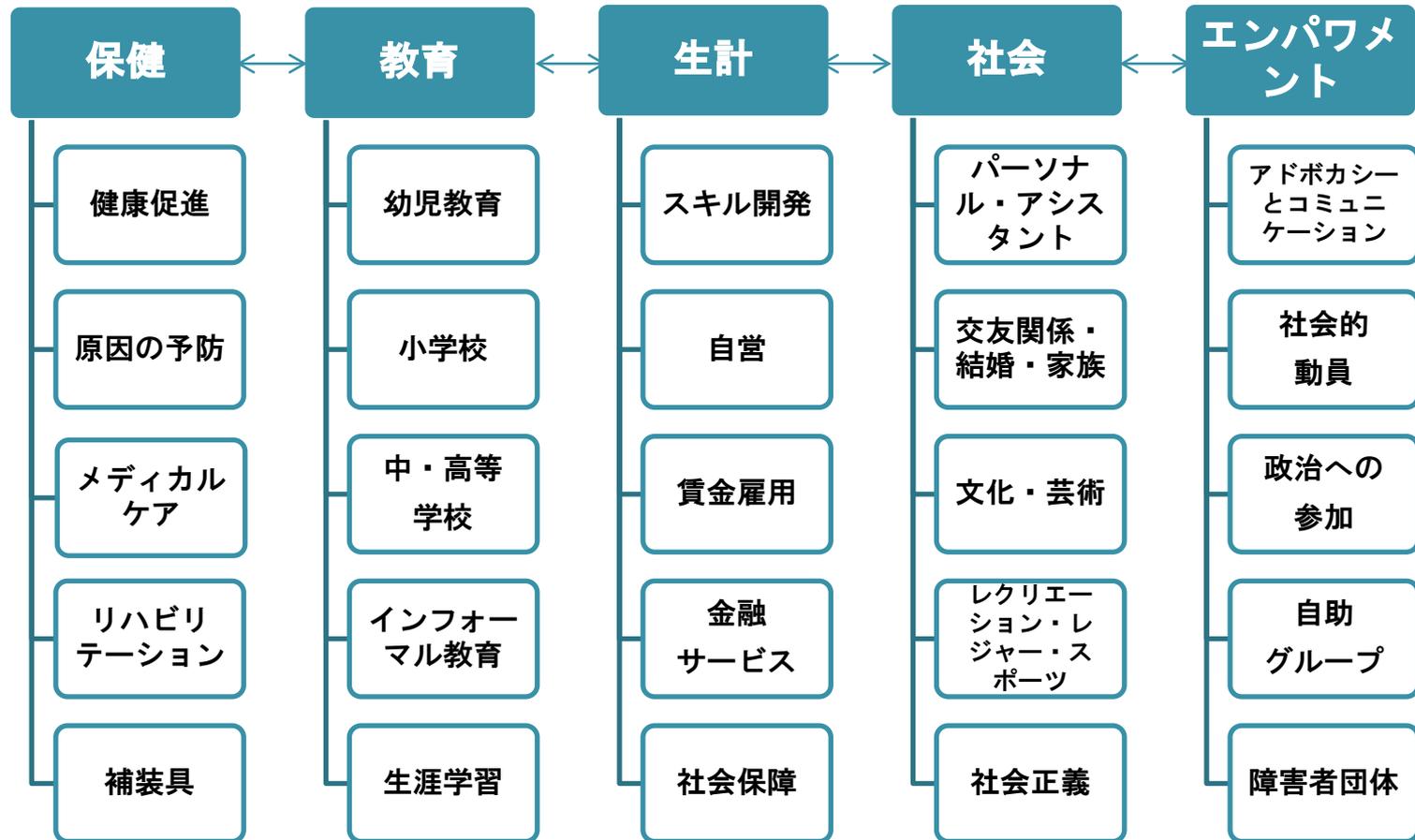
・ 児童対象：エンゼルプラン→新エンゼルプラン→次世代育成支援行動計画

（別建）介護保険事業計画・高齢者福祉計画

→ → → 「地域福祉計画に一本化」

3. 地域包括ケアシステム：ニーズに応じた住宅が提供されることを基本とした上で生活上の安全・安心・健康を確保するために、医療や介護のみならず、福祉サービスを含めた様々な生活支援サービスが日常生活の場（日常生活圏域）で適切に提供できるような地域での体制（地域包括ケア研究会報告書/2010年3月）

CBRマトリックス



CBRマトリックス

保健

教育

生計

社会

エンパワメント

健康増進

原因の予防

メディカルケア

リハビリテーション

補装具

幼児教育

小学校

中・高等学校

ノンフォーマル教育

生涯学習

スキル開発

自営

賃金雇用

金融サービス

社会保障

パーソナル・アシスタント

交友関係・結婚・家族

文化・芸術

レクリエーション・
レジャー・スポーツ

社会正義

アドボカシーと
コミュニケーション

社会的動員

政治への参加

自助グループ

障害者団体



例えば
 フォーマルサービスとインフォーマルサービス

長野県松本市



三つの「ガク都」：岳都・楽都・学都
健康寿命延伸都市・松本

人口：24万人 高齢化率：24%
(2012年7月/山形市同水準)

介護保険第1号被保険者の保険料は5439円
(長野県下1番高い/全国平均4972円)

35地区自治区 (1区888人～18722人)
歴史的に公民館活動盛ん
→福祉ひろば事業





松本市奈川地区：上質なそばの故郷



フランス鴨：間もなく出荷、平均80日で出荷





常念 新メニュー

そばっ娘

ほんのりとした
くるみ味噌の香りを
そば粉の皮に包んで
こんがり揚げました
お酒のつまみに又
お土産にどうぞ

一人前三ヶ五二五円



フランス鴨（バルバリー種）を活用した障害者就労の新しいモデルの構築

1. スタートは社会的課題から → 工賃倍増。
2. 取組みの方向は、保護雇用から一般雇用へ。
3. 取組みの視点は、クオリティを高める。
4. 取組みの要素は、地元におく。
5. 新しいモデルとは、組織化を図る。

奈川そばを活用した障害者就労の新しいモデルの構築

1. スタートは社会的課題から → 遊休地活用。
2. 取組みの方向は、地域活性化。
3. 取組みの視点は、商品確保を図る。
4. 取組みの要素は、道具と人と場所はある。
5. 新しいモデルとは、人材確保を図る。

